



北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL : 0155 (37) 5501
発行日 令和2年8月31日

夏休み明けの登校の様子は？～PTA社会部登下校実態調査

8月18日と26日にPTA社会部による登下校実態調査が行われました。これは生徒たちの登下校の様子を保護者の視点で気のついたことをあげていただき、その後の生徒指導に反映させていくとするものです。18日は登校指導で、15名の保護者の方の参加をいただきました。

多くの生徒は挨拶もしっかりして落ち着いた様子だということでしたが、始業の間に登校してくる生徒の行動が非常に危険だという指摘を受けました。横断歩道を歩行者信号の点滅や赤信号で渡っていく生徒や自転車や慶愛クリニックの曲がり角を猛スピードで曲がる生徒が少なからずいるとのこと。こうした行動は事故の被害に遭うばかりではなく、自転車の場合は歩行者への加害者にもなり得ることです。いずれも時間のゆとりの無さが原因なのは明らかです。各HRでも指導しましたが、ご家庭におかれましてはぜひゆとりをもって学校に送り出していただければ有り難いです。

一方、26日の下校指導は19名の保護者の方の参加をいただき15:35から実施しました。非常に暑い中でしたが、ほとんどの生徒は制服をしっかりと着用しており、挨拶もしっかりしてしている

のことです。ただ残念ながら歩きスマホの生徒もいたようですし、歩行者が多い歩道でスピードをあげて走る自転車もいたということです。自転車マナーを再チェックしてほしいと思います。

これからどんどん日が短くなっていきます。自転車のライト点灯を確実にすることと歩行者としても反射材を身につけるなど自動車へ自分の存在を伝える工夫も必要です。今後も事故に遭わない、起こさないよう指導を継続してまいります。どうかご家庭でのご指導・ご協力をお願いします。最後になりましたが、参加されたPTA社会部の皆さん、暑い中、本当にありがとうございました。

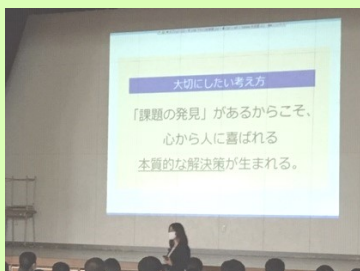


1年探究学習始動

21日にリクルートパートナーズから岩崎千恵さんをお迎えして、探究学習とは何か、その目的と内容について講話していただきました。

探究活動とは、自ら課題を発見し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく学習活動のことですが、岩崎さんは「課題を見つけることこそが難しい」とした上で、「だからといって課題がないから見つけられないのではなく、課題はそこら中にあるのだけれど見つけることができないのだ」というのです。それを発見するには「視点を変えること」「意識して周りを見ること」を挙げていました。

今後はSDGsについて学習した上で、様々な思考ツールを学び、ポスターセッションとして発表することになっています。



校舎ワックスがけしました！



皆様もご存知の通り三条高校の校舎は古いのですが、諸先輩たちが大事に使ってくださったお陰で築年数の割にきれいだと思うのは私だけでしょうか？ 今も生徒たちが丁寧に清掃をしてくれていますが、しっかりしたメンテナンスが大事なのは言うまでもありません。そこで本校ではローテーションで校舎床のワックスがけを行っております。昨年は教室でしたが、今年は廊下・階段部分を29日に実施しました。皆さん気付いてましたか？ とは言ってもワックスは万能ではありません。きれいな状態が長続きするように引き続き校舎を大切に使いましょう！

◆ テスト期間の送迎について ◆

明日から前期末考査が始まります。生徒の皆さんは、体調を整えるとともに、朝にゆとりをもってあせることなく登校し落ち着いた気持ちで考査に臨んでください。例年、テスト期間は送迎が多くロータリーが混んで渋滞が発生することから、多くの方にご迷惑をお掛けしていました。そこで昨年度末からテスト期間中は駐車場を空けるようにしています。送迎の際はロータリーではなく、駐車場にて待機していただきますようお願いいたします。



第4回 2年次主任 立浪 哲也 教諭

弱みを強みに変える！

当たり前のことですが人生というのは全てが思い通りになるものではありません。でも自分のとらえ方によって何とでもなる。人間万事塞翁が馬。弱みを強みに変えると生徒にいつも言っているのですが、それは自分の人生がまさしくその連続だったからなんです。

◆人との出会いが人生を回す

高校時代は明確な目標があったわけではありませんでした。ただ自分の力を試したいとは思いました。今思うと恥ずかしいんですが、自分が本気で勉強したらどこまで伸びるのかと思って浪人までさせてもらいました。国立の志望校に受かる自信があったのですが、結果はまさかの不合格。その時点で手続きが間に合う東京の私立大に進むしかありませんでした。だから入学後しばらく全くの抜け殻状態でした。何に対してもやる気がおきない。なぜ自分はここにいるんだろうって。3年目にゼミに所属するんですが、先生は若いけれど厳しい指導で評判の人でした。この先生との出会いが僕を変えました。「君には哲学の素質があるよ」と言ってくださって、時にはご自宅まで伺って語り合いました。そこで「自らの意志に基づいた行いこそ大切だ」というカントの哲学に触れ自分が変わり、人生が回り始めたのです。

◆教員としてのスタート

教職に就いたのも全くの偶然ともいえるべきものでした。就職は第一志望の企業に決まっていたものの、道教委から熱心なお誘いを受

け、一度教職を経験してからでもいいという周囲の勧めもあって教職に就きました。ここでも第一志望ではありません。でも、いざやってみるとおもしろいのです。

特に部活動指導。最初は自分の経験のある野球でしたが、異動したらバレーボールを任されました。自分がやったことのない競技ですからとにかく考えます。どうしたらいいのか、徹底的に研究するわけです。自分の本意ではない、得意ではないからこそ見えるものがあります。

◆教育には父性が必要

三条高校もずいぶん変わりました。赴任した頃は休み時間に大声・奇声が響くような学校で生徒とよくぶつかったものです。それから比べると今の生徒はかなり自律していると思います。ただ私が生徒に向かう姿勢は変わっていません。学校の指導で必要なのは“父性”の部分だと思っています。だから時には厳しく生徒に求めることもあります。でも最後まできちんと面倒をみる暖かさを持ち合わせたいと思います。多少の失敗やつまずきにくじけることなく、たくましく生きてほしい。自分の人生を振り返り心からそう思うのです。



三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。

インタビュー

キラリ

7年ぶりスタルヒン球場に校歌、ベスト8進出

野球部キャプテン 松田 晏歩くん



「甲子園中止のニュースを聞いた時は目指すものがなくなって気持ちが切れそうになりました。でも代替大会が開催される可能性があると聞いて、また前向きな気持ちになれました。」そう穏やかな表情で語ってくれたのは野球部主将の松田君。

「こうして最後まで野球ができて本当によかったです。全てがつけることができました。まずそのことに感謝したいです。」

野球部は実に7年ぶりの北北海道大会。そこでも1勝をあげ見事ベスト8を果たしました。チームをまとめた松田君の力が大きいのではと尋ねると「そんなことはないです。そもそも主将に選ばれたときは僕よりもっとふさわしい人があると思ったくらいです。僕は口があまり上手ではないので、行動で示すことしかできなくて…。とにかくみんな仲がいいんです。練習以外でも一緒に遊ぶことも多くて。本当に信

頼できる素晴らしい仲間でした。そんなチームの雰囲気、いいプレーを引き出したんだと思います。」と答えてくれた。

三条高校野球部の伝統を引き継ぐ後輩たちへ「意味のない練習はありません。練習に意味を持たせるのは自分。ただこなすのではなく、意識を強く持って取り組んでいこう自分を変えていくことが必要です」と熱いメッセージ。

そして最後に「朝早くから遅い時間までずっと指導して下さった先生方に感謝を伝えたいです。コロナで休校の間もずっとグラウンド整備など僕たちが野球をできる環境を作ってくれたことに感謝しかありません。ありがとうございました。」とここでも感謝の言葉です。

「小学校2年生から始めた野球がなくなって、改めて自分にとって大事なものだんだと気がきました。自分は本当に野球が好きなんだとわかりました」としみじみ語る姿が印象的でした。今までの野球人生を振り返って一番鮮明に思い出されるのは、三条高校野球部で初めて打ったヒット。レフトオーバーの3ベース。その感触が今でも手に残っているそうです。

